中秋の名月～月を望んで思うこと～

令和４年９月10日㈯は中秋の名月であった。蛇足ながら、中秋の名月という際の中秋とは旧暦の８月15日のことを指し、その夜に見える月が一年を通じて最も美しいとされていることから名月と呼ばれている。

なぜ秋に月が綺麗に見えるのかといえば、定期的な降雨により大気中の塵が洗い流されて澄んだ空気となることが多く、空気中の水蒸気量が他の季節よりも比較的に少ないことが挙げられる。夏は空気中の水蒸気量が多く、月は少しぼんやりと見えてしまうのだ。

また、秋は季節による月の高さが丁度良いともいわれている。月の通る軌道の関係で夏の月は低くなり、反対に冬は高くなる。月が低い位置にある夏の場合、地表に近い塵や明かりに邪魔されて綺麗に見ることが出来なくなり、さらには大気内の水蒸気によって光が吸収されるため暗く見えてしまう。逆に、高い位置にある冬の月は見上げても他の季節に比べて小さく見えるし、何より寒い。

そこで、月が綺麗に見える適度な高さは春と秋、となるのだが、春は春霞といわれるように空気中の塵や花粉、黄砂などの影響を受けることが多い。そのため、年間を通じて綺麗な月が見えるのは秋、となるのである。

ところで、月はどの様に出来上がり、いつから在るのだろうか。

月の成り立ちとして有力視されている巨大衝突説によると、地球の形がある程度出来上がってきた頃に巨大な天体が衝突し、その破片が集まって出来たものが月であるのだそうだ。つまり、地球が形成される過程の中で月も形成されていったということである。

地球は隕石などの分析によって今から約46億年前に出来たとされているが、月にある最古の石もまた約46億年前のものとの分析がある。それが地球の石とほぼ同じ成分とされていることが、地球と月は身を分けた同じ星であったとされる所以である。

月の美しさを眺めて楽しむことを観月といい、その集いである観月会では宴を催して管弦の音色や和歌、月見酒を楽しんだとの記録がある。私はその様に優雅な観月をしていた訳ではないが、今年は中秋の名月に初めて手が合わさった。何せ46億年も先輩の月である。観月という風習以前にも多くの先人達が眺め、愛してきた月と変わらぬ同じ月を眺めていることに、感慨無量の思いを抱いたのだ。

昨年に引き続き、今年の名月は満月となった。次に中秋の名月が満月となるのは８年後の令和12年だそうである。

こう聞くと、今年の名月がより有り難く感じるものだが、宇宙に浮かぶ月そのものに満ち欠けが有る訳では無い。けれども、私の目に映る月には満ち欠けがある。

これは、お月さまが明るく輝いている、という様な表現に似ている。それでいいじゃないか、そう見えるのだから、とも思うのだが、お月さまは只太陽に照らされているだけ、と大元を知ることもまた、心豊かに生きていくためには必要であると思うのだ。

やっさん